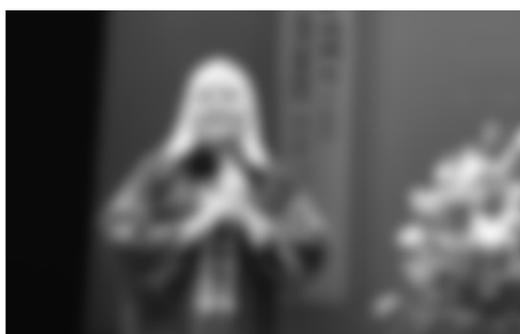




白く連なる花々を夢見て

5/25 「おひさま」ロケ地周辺でソバの種まき

おひさま推進協議会によるソバの種まきが5月25日、堀金烏川のNHK連続テレビ小説「おひさま」ロケ地周辺の国営公園敷地で行われました。この取り組みは、ドラマの放映にあわせ、安曇野らしいビューポイントを整備しようと同協議会が計画したもので、この日はトラクターを使い、夏ソバを約3畝にまきました。ソバの花は7月上旬から中旬に見ごろを迎えそうです。



自ら取り組む地域おこし

5/22 第5回安曇野市公民館大会

5回目となる市公民館大会が5月22日、豊科公民館ホールで開かれ、市内公民館関係者350人が一堂に集いました。功労者表彰や事例発表に続き行われた講演会では、小布施町（株）榊一市村酒造場代表取締役のセーラ・マリ・カミングスさんをお迎えし、「自ら取り組む地域おこし」と題して講演が行われました。カミングスさんは廃業寸前だった老舗造り酒屋の再建に貢献するとともに、くり菓子や葛飾北斎で知られる小布施町の地域おこしに熱心に取り組まれています。「余裕がないと言わず、自分ができる可能性の枠をもっと広げてみれば」と、志を持つことの大切さを語る前向きな話に、参加者は興味深く耳を傾けていました。

安曇野特産 ワサビを使って

5/23 おひさま推進協議会 新メニュー発表会

おひさま推進協議会による特産のワサビを使った新メニューの発表会が5月23日、三郷温のレストランで、地元の調理師の皆さんなどを招待し開かれました。この催しは、NHK連続テレビ小説「おひさま」の放映を機に、地元の食を活性化しようと、市、市商工会、安曇漬物組合、松本大学が提携して開いたものです。

メニューの開発は、松本大学健康栄養学科の学生が担当。合わせる食材には、山菜、信州サーモン、塩丸イカなど、地元の素材や、昔から食べられている素材を使用するなど、工夫が凝らされていました。当日のメニューは、茎を酢飯に混ぜ込んだ「イカめし」や「いなりずし」、わさびの清涼感を生かした「冷製パスタ」、長いもと一緒にした冷たいスープ「ビシソワーズ」、すりおろしたわさびを使ったデザート各種など、約20種類が披露されました。学生たちは、この日の意見をもとにメニュー作りにさらに磨きをかけ、商品化を目指します。



1,700人の思いひとつに

5/28 アルプス花街道一斉定植

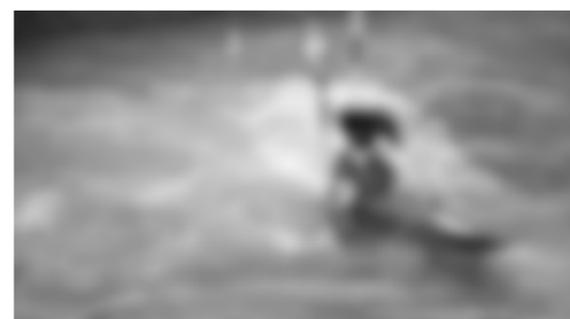
アルプス花街道実行委員会によるマリーゴールドの一斉定植が5月28日、豊科インターから県道田沢柏矢町停車場線の区間などで行われました。今年は、97団体約1,700人が参加、新たに国道147号豊科南中南交差点から西約500メートルの場所でも取り組み、市内10カ所、約10kmの長さで植栽されました。この取り組みは、安曇野を訪れる皆さんを花で迎えようと、市民・企業などが協働で行っています。等々力秀和実行委員長は、「震災でみんなの気持ちが沈んでいる中、花を咲かせることで元気になれば」と話しました。植えられたマリーゴールドは、7月から9月にかけて見ごろを迎えます。

親睦と交流のはな咲く

5/21 あづみ野豊里菜の花まつり

穂高の観測点で32.0度の真夏日を記録した5月21日、穂高豊里地区で恒例の「あづみ野豊里菜の花まつり」が開催されました。区内には転入者が多く、区民の親睦や交流を目的にこの催しが始まり、3回目になります。

今回は、ビフ穂高東約1畝を同じ区内の13人から土地を無償で借り菜の花を育ててきました。例年5月の連休最終日の開催でしたが、生育の遅れでこの日の開催となり、実行委員長の北澤貞雄区長は、「今日までやきもきしていたが開催できて良かった。多くの区民に参加してもらった」と喜びを話しました。会場では菜の花のてんぷらや、ぬかどご飯のおにぎり、かき氷などが無料で配られ、多くの親子連れなどでにぎわいました。この後7月ごろ種を収穫し、秋には菜種油をビフ穂高などで販売する予定です。



国体出場権をかけて熱戦

5/22 第32回北信越国体カヌー競技会

第32回北信越国民体育大会カヌー競技会が5月22日、明科中川手の龍門湖公園内前川で行われました。大会には、北京五輪代表の矢澤一樹選手（飯田市出身）をはじめ、各県の予選を通過した14人が4種目に参加しました。当日は、時折強い雨が降るあいにくの天候でしたが、チーム関係者やファンが声援を送る中、選手達はコース内に設けられたゲートをいかに早く、正確に通過できるか競い合いました。大会上位入賞者は、10月、山口県で開催される第66回国民体育大会へ出場します。